夏のイベントが復活の兆し！今年は「節電」アイテムとしてもおすすめです。

ポリ平柄うちわ

ちきゅうにやさしい プラスチックの再利用

エコマーク付き

再生ポリプロピレンを材料として作られた環境に優しい製品です

■レギュラーうちわ

扇面 オリジナル印刷別注 100本～

No. 1 金魚
No. 2 花火
No. 3 朝顔
No. 4 金魚・舞
No. 5 レモン
No. 6 アザラシ
No. 7 浮世絵赤富士
No. 8 ペンギン
No. 9 ヒマワリ
No. 10 露草・蛍
No. 11 桔梗
No. 12 朝顔・ガラス玉
No. 13 交通ルール
No. 14 祭・ブルー
No. 17 応援
No. 16 白貼り（純白紙）

No. 1～14、17
ポリ平レギュラーうちわ（コート紙）
約W640xD460xH245㎜
500入　No.1～14、17
本体：約縦335（扇面210）x横237㎜
紙質：表面/コート紙、裏面/純白紙

No. 16
ポリ平レギュラーうちわ白貼り（純白紙）
約W640xD460xH245㎜
500入　No.16
本体：約縦335（扇面210）x横237㎜
紙質：表面/純白紙、裏面/純白紙

価格はお問い合わせください

■コンパクトうちわ

扇面 オリジナル印刷別注 100本～

No. 341 金魚
No. 342 河原の花火
No. 343 月うさぎ
No. 344 うさぎ
No. 340 ポリ平コンパクト白貼り（純白紙）

携帯しやすくA4封筒やバッグなどにもすっきり収まります。

No. 341～344
ポリ平コンパクトうちわ（コート紙）
約W570xD370xH220㎜
500入x2　No.341～344
本体：約縦278（扇面174）x横195㎜
紙質：表面/コート紙、裏面/純白紙

No. 340
ポリ平コンパクトうちわ白貼り（純白紙）
約W570xD370xH220㎜
500入x2　No.340
本体：約縦278（扇面174）x横195㎜
紙質：表面/純白紙、裏面/純白紙

◀ 扇面（デザイン面）の寸法、注意点については裏面をご参照ください。

価格はお問い合わせください

日本古来の伝統「竹うちわ」ワンランク上のさりげないアピール

竹平柄うちわ

竹うちわについて

竹は天然の物ですので、ささくれがあったり、サイズに若干の誤差が生じます。あらかじめご了承ください。

■刷り込み用竹うちわ

扇面 刷り込み別注 100本～

価格は
お問い合わせください

在庫に限りがありますのでお早めにご注文ください。

No. 101～111
刷り込み用竹うちわ
約W640xD460xH325㎜
500入 No.101～111
本体：約縦370（扇面220）x横240㎜

No. 119
刷り込み用竹うちわ 白貼り
約W640xD460xH325㎜
500入 No.119
本体：約縦370（扇面220）x横240㎜

■全自動貼り竹うちわ（別注専用）

扇面 オリジナル印刷別注 100本～

センター配置やうちわのラインに沿ったデザインはズレが目立ちます。
データを作成される際はズレることを考慮してください。

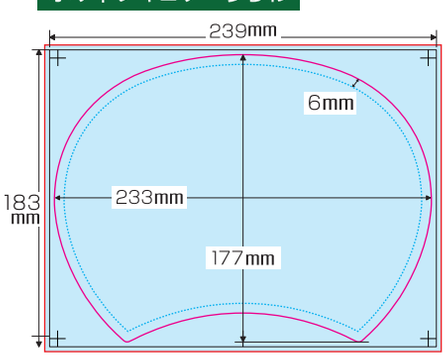
本体：約縦370（扇面220）x横230㎜
※全自動貼り竹うちわ（別注専用）は
両側の耳と周囲のへり紙がありません

●うちわ（扇面）について

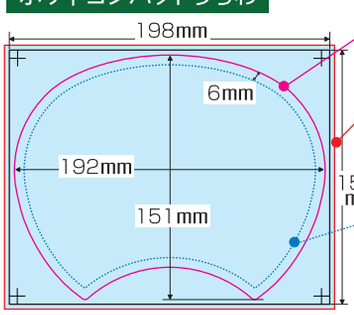
※展開図はご用意がありますのでお問い合わせください。

ヌリ足し面
背景等、ベタ印刷の場合は、図柄が 部、全面に必要です。

ポリ平レギュラーうちわ



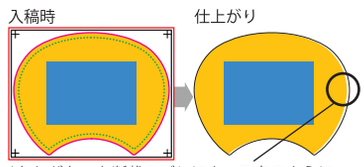
ポリ平コンパクトうちわ



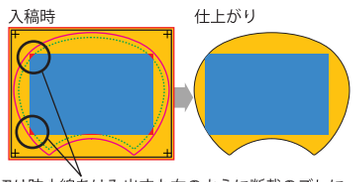
うちわ（印刷紙）断裁線
仕上がり位置になります

ヌリたし位置
うちわ全体に模様・色・写真等で処理する場合は、このラインまで必要です

見切り防止線
断裁線より6mm内側
文字や商品等絶対に切れてはいけないものはこれより内側に配置してください

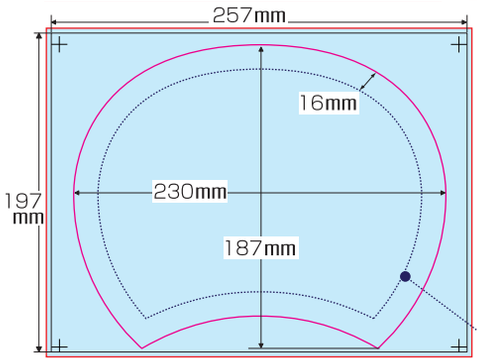


ヌリたしがないと断裁のズレによって右のように白地が出てしまいます。



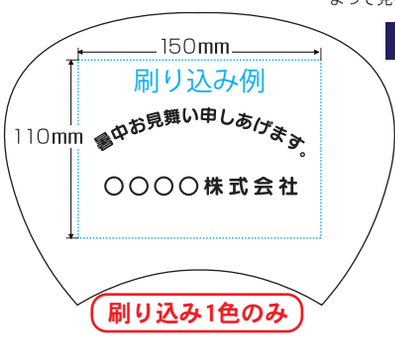
見切り防止線をはみ出すと右のように断裁のズレによって見切れてしまう恐れがあります。

全自動貼り竹うちわ



竹は天然の物で、成型型と違い、一本毎に相違があります。その為、うちわの図柄に上下左右のズレ（特に左右）が発生します。ご理解頂きますようお願いいたします。ズレが目立つ、センター柄や、うちわのラインに沿った図柄は不向きです。データを作成される際はズレることを考慮し作成してください。

見切り防止線
断裁線より16mm内側



竹平柄刷り込み用うちわ

- アミ掛け（グラデーション・ハーフトーン）、全面ベタ等は出来ません。
- 使用フォントに制限はありませんが、太さ、サイズにご注意ください。

ゴシック体の場合
太すぎないこと、太い文字は「つぶれ」の原因となりますので、お奨め出来ません。
明朝体の場合
細すぎないこと、細すぎると「かすれ」の原因となります。